

Title	編集後記 欄外
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 17
Issue Date	2011-10-15
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/21422
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

対話や教育といった現場で考えること、金曜6限の授業や大学でのミーティングで反省すること、そうしたことは別に、一人で書くこともまた、臨床哲学という営みにとって欠かせないものであることがメチエ復刊の試みを通してよく理解できました。拙いながら書き上げたものにコメントをもらい、また他のメンバーの文章と一緒に見直すといった過程にも独特の楽しさと発見がありました。どうぞ今後のメチエにもご期待ください。(川崎唯史)

臨床哲学の活動に足を踏み入れることが増えるにつれて、フィールドでの経験を振り返る場所がほしいと痛切に思うようになりました。現場で何かをつかみかけながらも、うまく言語化できないこともどかしい。そのもどかしさと向き合う場の一つとして、メチエがあってもいいと思います。メチエ復刊にあたり、ご協力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。(辻明典)

編集後記

欄外

臨床哲学の活動はどんなもので携わる人がどんなことを考えているか。金曜6限など活動について発表する機会はあるものの時間切れ…という場面が多く、それぞれがフィールドの経験を持ち帰り共有する場があればと思い、メチエ復刊に至りました。活動の記録や携わる人の考えが詰まったごった煮なメディアにできればと思います。最後になりますが、メチエ復刊に向けてご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。(楠本瑤子)

メチエの復刊にあたり、他の人に向けて書き、創ることの責任をひしひしと感じつつ、微力ながら手伝わさせていただきました。それぞれの文章はそれぞれの経験を伝えると同時に、誰かに向けて、誰かのために書かれているのだと感じます。メチエが今後とも、そのような貴重な書き物の場であれば願いながら、編集に携わっていきたいと思います。(金和永)